

タケ・サイト 生コン付着防止剤開発

CNF配合で環境配慮

タケ・サイト（静岡県駿河区、054・237・6717、武田雅成社長）は3月にコンクリートポンプ車専用生コンクリート付着防止剤「オビス」の販売を開始した。コンクリートポンプ車のホッパ部に塗り込む付着防止剤で、生コンと混ぜざっても品質低下を起さない。既存の油系付着防止剤に代わるものとして一部の圧送業者が使用し始めている。

り、生コンと混ぜると品質低下の原因や打設打ち継ぎ面に油膜を形成するなど問題になっていた。また、圧送前の先行材を油と一緒に圧送してしまい、筒先処理が非常に厄介だった。

そこで、セルロースナノファイバー（CNF）と生コンスラッジを主成分とするオビスを開発した。液ダレすることはない。CNFと無機粉末のハイブリッド作用で塗布後すぐに乾燥し、強固な付着防止膜を形成する。従前の付着防止剤と同等の機能を有し、方が一生コンと混ざった場合も生コンの品質に与える影響が少ない。開発の経緯について武田社長は「一部ゼネコンでは油脂系付着防止剤をやめてほしいという声があり、圧送用先行剤『ルブリ』を応用して開発した」と語る。

やT字管などから投入し、圧送するだけで薄く均一な潤滑層を形成し、先送りモルタルの役目を果たす。その後、生コンを圧送する際に溶液が排出され、取り除いた後は通常に圧送することができる。こちらもゼネコンへの認知が進み、首都圏の大型プロジェクト現場で標準採用されるケースも出ている。

テラは粉末タイプの改質剤で、打設終了後のホッパ内に散布し、攪拌羽根とSパイプを逆転運転で約3分練り混ぜるだけで碎石化できる。六価クロムを瞬時に無害化できる。また、テラは全国コンクリート圧送事業団体連合会を通じて、会員は1セット（10袋入り）から購入可能である。

同社ではルブリ、テラとも普及を促すため国土交通省の新技术活用システム（NETTIS）に登録しており、建設物価サービスが発表する『2021年版建設工法NETTIS』の表紙でも両工法が紹介された。これを弾みに今後のさらなる普及が期待されている。